【グループワーク（Aグループ）】

（コーディネーター 伊藤 氏）

最終的に目指すところは提案書であり、それを作るために話し合っていこうと思います。

新嵐山スカイパークを今後どうしたらよいのかと考えていくことが一番大きく目指すところになります。ただし、話しをしながら芽室町全体の話になることもありますし、皆さんがこれを言うとちょっと的外れかなと思っていただく必要は全くありません。その時に感じたことをどんどん発言いただければと思います。休日に３時間かけて行政の会議に参加することはあまりないと思いますので、できる限り楽しい場にしたいと思いますし、意味のある会議にしたいと思っています。

それでは自己紹介（名前及び地域・芽室に来て何年・新嵐山にどれくらい来てる・新嵐山スカイパークについて、いま感じること）をお願いします。

（委員１）

・上美生に住んでいる。

・改革前は仕事終わりによくご飯を食べに来ていたが、夜やらなくなってからは、ほとんど来てなかった。最近は、孫ができたので、孫と一緒に遊ぶ場で遊ぶことはある。最近来たのは１か月半くらい前である。

・自分も足が運べるような新嵐山にしていければ良いなあと感じている。

（委員２）

・北芽室に住んでいる。１０年前に移住してきた。

・スノーボードをする時に新嵐山に来ていたが、それ以外は来ていなかった。

・犬を飼っているがドッグランが新しくなって、内装も少し変わったり、キャンプ場が変わってきたりしたので期待感はある。

　活用が増えてくると、山の資源に人の手が入りすぎることから、資源を守っていくことも大事なので、その点も考えていきたい。

（委員３）

・駅裏に住んでいる。芽室に来たのは６年前。

・新嵐山には３年前にアイスクリームを買いにきたのが初めて。その頃は何もなかった。

　最近では、キャンプ好きのママ友から新嵐山がすごいという話を聞き、子どもたちと一緒に来てびっくりした。

・周りからは「新嵐山には何もない」という話が出て、選択肢から外れる。子どもたちからも行きたいと話が冬でも出てこない。理由を考えると幼稚園や小学校で行くのは芽室公園やグリーンパーク、忠類のナウマン公園なので。変わった今なら、新嵐山あるよと紹介できる。

（委員４）

・栄に住んでいる。

・新嵐山には天空カフェに初めて来た。最近では、３年前にアイスクリームを買いにきたのが初めて。その頃は何もなかった。

　最近では、子どもが遊べる場所ができたので利用している。今シーズンはイベントが開催されているので１０回くらい来ている。

・楽しいことがやってて、来るきっかけが増えているので、今後どのようになっていくのか知りたい。

（委員５）

・坂の上。

・月２回くらい来ている。昼ご飯を食べに来ることが多い。

　冬シーズンはスキーをするが、ほとんどトマムを利用していた。

・改革については良かったと思っている。町の魅力をもっと外に宣伝するツールとして活かしたいと思っていたので改革はやった方が良いと思っていた。

　改革の良し悪しを聞くことが多くなったので、こういう場で議論しながら、歩み寄ることができればと思っている。

（委員６）

・駅前周辺に住んでいる。芽室に来て１年。

・新嵐山に来たのは今回が初めて。

・サホロやトマムなど競合しているスキー場が多い中で、スキー以外のアクティビティにも力を入れているので、その方面を充実させることで利用客が見込めるのではないかと思う。

（委員７）

・麻生町に住んでいる。芽室に来て６年目。

・ドッグランを利用しているので、月１・２回来ている。

・高校生の頃は、授業で夏冬と来ていたが、その頃と比べると雰囲気が暗くなっている感じがする。ドッグランに来ている時も人が少ない。

（委員８）

・上伏古に住んでいる。

・３年前までは、夏は月１・２回、冬はスキー少年団の関係で週５～７回来ていた。

ナイター営業日が短縮されてから、冬は週２～３回、夏は食事に月１回程度。食事の回数が減ったのは料理のメニューが変わり、来づらくなった（普段使いできなくなった）。

・これまで、夏場はパークゴルフだけだったので、グランピングやドックランなどができて良かったと思う。冬に関しては、管理がずさんな感じがする。リフト前で朝イチに常連さんのクレームが多かったので今シーズンどうなるか気にしている。

　大雪が降っても圧雪車で踏まなかったり、グランピングテントを潰したり、管理はしっかりしてほしい。

（委員９）

・東めむろに住んでいる。

・春はカエルの卵を取りに小川へ、夏はクワガタを取りに子どもと来ており、年に数回来ている。

・ハード面ではなく、自然を楽しみに来ているので、今回の会議でハード面を利用する目線でどうなのかを考えてみたが、案内表示などホスピタリティに欠ける面があると感じた。初心者向けになっているが、初めて来た人が迷う感じがする。

対象が町民と観光客と相反していて難しいとは思うが、誰が来ても喜んでもらえる施設になればと思う。

（委員１０）

・東めむろ。４月から芽室に住んでいる。道内を転々としている。

・新嵐山には今回初めて来た。

・南方面に来る機会がなく、新嵐山に何があるのか情報としてあまり知らなかった。

仕事以外のコミュニティも無いので参加しようと思った。フィールドを回ってみて、ドッグランにたくさんの人が来ていることが分かった。また、改革以前の状況がわからないので何とも言えないが、グランピングテントの内部を見て楽しいそうだと感じた。

何かこれというものがないとスキー場にしても他の大きいところに行ってしまうと思う。

（委員１１）

・愛生町に住んでいる。芽室に来て７年目。

・夏場は仕事で２・３回、プライベートで家族と２回くらい。冬は子どもがスキースクールに通っているので送迎がてら来ている。

・改革に賛成している。ハンモックフォレストやメムピ―ソフトなど子どもが喜ぶコンテンツが増えていて、家族で来ても楽しい。グランピングなども利用したい。

ただし、色々と格好よくなっているが、中途半端だと思う。例えば、床のカーペットなども気にした方が良いと思う。

自分も新嵐山に関わりながら、色んな人の意見が聞ければ良いと思い、参加した。

（委員１２）

・本通りの南に住んでいて、芽室に来て５年目。

・新嵐山には年１・２回来ている。最初に来たのが、義姉（元町民）に誘われたグランピングだった。その時グランピングという言葉を初めて知った。テントも張らなくて良いし、中にベッドもあって、食事も運んできてくれて、すごいところだと思った。初めて来たのが、グランピングなので新嵐山は観光地という印象が強い。なので、妻と散歩しようと思っても新嵐山は選択肢になかった。

（委員１３）

・本通りの南に住んでいる。

・新嵐山には年間１０回（夏はバイクでドライブ、冬はボード）くらい来ている。

・子ども連れや犬を飼っている人、キャンプをする人、スキー・スノーボードをする以外は、来る理由がほぼない。

結局、新嵐山（町）が何をしたいのか、何を見直したいのかが理解できていないので何とも言えない。

現在実施している事業以外に新しく発見してそれができれば良いと思っている。

（委員１４）

・芽室町の渋山で生まれ、美生に住んでいる。

・健康維持のため、１０人程度のグループでパークゴルフに来ている。ここは、食事もできるので。春にパークゴルフに来たが、降雪機のキャタの跡が残っていて、管理がしっかりされていない。スキーシーズンもゲレンデの地肌が見えることが多かった。地元雇用が減ったという噂も聞く。車で展望台に行くことが多い（自宅が見えるので）が、もっと展望台を利用したら良いと思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

新嵐山の利用については、様々であるとわかった。次回以降は、もう少し具体的にどのように見直していくのかを話していきながら、解決策を探っていく。活用計画の見直しのタイミングに合わせて開催したのがこの場である。

（委員自由発言）

地元に説明がないまま、変わった感がある。

（コーディネーター 伊藤 氏）

事実関係をわかるようにしたい。地元雇用の状況は。

（町）

　地元の雇用は増えている。高齢者の短時間アルバイトや地元で働きたいという方の応募も増えているし、新嵐山を利用してみて、ここで働きたいという方もいる状況である。

（委員自由発言）

町の方から、方針を示さないのはどうかと思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

町としては活用計画という形で明確な意思表示をしている。個別には、新たにグランピングを実施するとか。これに対して様々な意見があるので、いったんこのタイミングで幅広く意見を聞こうとこの会議体を設けたもの。大きな方針は別として、個別事業に対する町の考えはあるのであれば、その点は明確にしようと協議してきた。例えばスキー場については町の考えを出しても良いのでは。

（町）

現行リフトの更新に７億、一本化しても４憶はかかるが、町としてはスキー場を維持したい。そのためにも、３０年以上経過している現行リフトを早急に更新したい。

なお、現行リフトの更新または一本化については、委員の意見を参考に決めていきたい。

（委員自由発言）

スキー場や宿舎など収益で賄えるのであれば整備をしても良いのではないか。

（コーディネーター 伊藤 氏）

次回、収支の状況を資料として提出してください。過去との比較もわかるような内容で。

（委員自由発言）

現地説明の際、利用者に好評いただいているという説明が多々あった。好評ならば、そのまま計画を進めても良いとなると思う。

利用している人の町民と町外の利用比率はどれくらいあるのか。どれくらいの人が満足しているのか。利用している町民の声はどうなのか。利用している町民が満足しているのであれば不満に思っているのは、利用しない町民である。その声には、気にし過ぎなくてもよいのではないか。

（コーディネーター 伊藤 氏）

次回、満足度調査の結果を資料として出してください。

町民・町外の比率でいうとどうなのか。

（町）

顧客満足度調査の結果では、夏も冬も十勝管内の利用が多い。

（委員自由発言）

・介護施設に勤めているが、高齢者からも新嵐山が変わるという話を聞いていた。利用した高齢者からは、ごちゃごちゃして行きづらくなったという話を聞く。若者向けになったのかなと思う。

・子ども目線に意見ですが、新嵐山はママ友の間でも話題になることが多いが、改革して悪くなったという意見は地元の人から聞く。レストランも観光向けの高級化になったという話を聞いた時は町民が使いづらくなったと思っていたが、実際にレストランの価格を見るとその評価に疑問を感じた。それと新嵐山に入る際に大きな看板がなく、わかりづらかった。郊外の人にはわからないと思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

レストランについても事実関係を整理したい。レストランは１・２階に分かれているが、厨房は同じ。メニューが違う。意見のあった高級化というかメニューの変更はあったのか。

（町）

食材はなるべく地元産を使用することを求められてきた。それを実行に移したもの。芽室産の野菜をふんだんに使ったメニューに変更した。仕入れの関係から価格が高くなるのは致し方ないと思っている。

（委員自由発言）

・従来のメニューが半分くらい残っていれば大きな不満にはならなかったと思う。メニューががらりと変わってしまったので、よろしくない感情になったのでは。

・バーベキューなど大人数での焼肉ができなくなった。

（町）

・リスク管理上、施設サイドとしては、他の利用者の事も考えると人数制限は、仕方ないと思っている。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・コンセプトの異なるレストランが２箇所あることは強みになると思うが。

（委員自由発言）

・メニューが変わり、特に２階レストランは、地元の野菜が多く使われていて、カラフルであり、これなら遊びに来た人を連れてきたい、自慢したいと思った。

・以前は、１階と２階とでそれほど差別化されてなかったし、もっと差別化すべきと考えていた。２階レストランは特別感を味わうため、求めるために利用していた。

料理の提供時間が改善されてきたので、オペレーションも含めて見直したものと認識している。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・食堂やスキー場に関わらず、この場所を「町民のため」を中心として考えていくのか、「町外の人のため」を中心として考えていくのか、「町民と町外の両立」を目指すのかを考えることが重要と思う。

（委員自由発言）

・その他の要素として、年代によっても温度差があると思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・この場所を「子どもを含めた子育て世代のため」に考えていくのか、「地域(美生・上美生)を含めた高齢者世代のため」に考えていくのか、「全世代のため」に考えるのか、ターゲットの視点も重要である。

・今後、議論を重ねながら、できれば最終的には、同じ方向性になる話し合いができれば良いと思っている。

以上



